66	Nieuwe Atlas Inhoudende de Vier Gedeeltens der Waereld	
	AN-284	J.Covens, C.Mortier共編
	『世界四大州新地図帳』。18世紀にヨーロッパに流布していた地図が収録されている。	

◆ 57×37㎝、1冊が厚さ7㎝にも及ぶ総皮表紙の大型豪華本である。上下2巻からなり、上巻に91枚、下巻に88枚の地図が収録されている。そのうち、地図中に年代が記されているのは10枚である。その年代の下限は1783年、上限は1703年である。このことから、本地図帳はおおよそ18世紀の初期から約80年間にわたる期間に制作された地図を収録したものであると思われる。

各地図には、漢字やカタカナで地名を墨書した金・銀紙が貼り込んである。もっとも、現在ではそれらの表面は黒変し、文字は判読しにくくなったものが多い。金・銀紙に地名を和訳して貼ったのは、江戸中期の阿蘭陀通詞・蘭学者、本木良永(1735－1794) である。彼は本地図帳の総論部分を訳し、『阿蘭陀全世界地図書訳』(上・中・下3巻3冊) としてまとめている。本木の訳した地名が、現在の日本で使用されている地名の始まりであるといわれている。

地図の掲載対象地域を州別に分類すると次のようになる。

ヨーロッパ州関係　129枚 (72%)　アジア州関係　17枚 (10%)

北アメリカ州関係　14枚 (8%)　アフリカ州関係　8枚 (4%)

地球規模の半球図・その他の説明　6枚 (3%)　南アメリカ州関係　5枚 (3%)

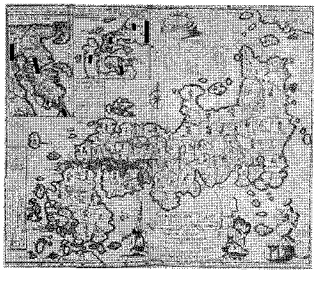
国別では、ヨーロッパ州の国々が多く、ドイツ25枚、フランス20枚、ネーデルランド・オランダ17枚、イタリア15枚、ロシア14枚などである。上位の5か国で全地図の半数を超える。

本地図帳には、日本の地図も1枚収められている。この地図は、ドイツ人ケンペル (Kaempfer 1651－1716)が著した『日本誌』(邦訳及び英訳本を当館で所蔵している。邦訳 **291-420**　英訳 **G291-11, G291-12**) にあるものと同一である。ケンペルは、1690年から1692年にかけて日本に滞在した医師である。一方、近藤重蔵(1771－1829) は、著書『辺要分界図考』(『近藤正斎全集』(**081.5-コ1**)所収) のなか (巻之一　図目第一・第二) で、「蠻人モルチイル所編図」として本地図帳の原図の一部を模写している。

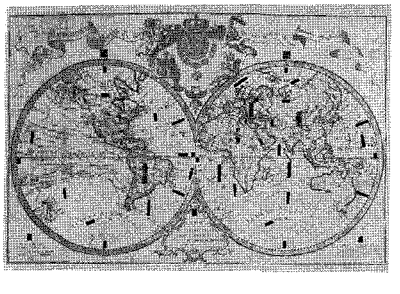
<参考資料>　「亜欧堂田善製作の銅版画と阿蘭陀版『全世界新地図帖』の銅版画」(上) (下) (『美術研究』第329,330号所収) (Z70-1)

「コヴァン・モルチール共編『世界地図帳』と本木良永訳述『阿蘭陀全世界地図書訳』」(『葵』18号所収) (SZ01-3)

「静岡県立中央図書館所蔵のいわゆる『モルチールの地図』について (その1)」(S088-146)



66　世界四大州新地図帳



66　世界四大州新地図帳